



講義科目名称 : **技術と倫理** 授業コード : **22253**
 英文科目名称 : **Engineer and Morals**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2	選択
担当教員			
松井 信正 他			
2年次以上	工学部	週2時間	
添付ファイル			
科目レブリック(技術と倫理_HORI)_#2021.pdf		科目レブリック(技術と倫理)	

授業概要	<p>技術にかかわる者が、理解しておかないといけない「倫理」を学ぶと共に、これらにかかわる各コースの事例を基に解説する。</p> <p>学位授与の方針・教育課程編成実施の方針の対応する教育目標 【船5】，【機R6.1】，【機1.4】，【機J6.1】，【建5.2】，【医5】，【医3】 J A B E E 学習・教育到達目標：(6.1)</p> <p>その他の年度については、 2019年度以前入学生は2019年に掲示された内容、 2020年度以降入学生は入学年の履修ガイドを参照すること。 また、系統図も参照すること。</p>
授業計画	<p>第1回 技術者倫理の視点(堀 勉;船舶) 冒頭で、「技術と倫理」の授業全体(全15回)のガイダンスも、実施する。</p> <p>第2回 倫理と法 — 技術者倫理による考察の範囲 — (本田 巖;機械)</p> <p>第3回 公衆の安全・健康・福利 — 倫理規程 — (清水 悦郎;医療)</p> <p>第4回 安全性とリスク (山田 由香里;建築)</p> <p>第5回 費用便益分析と製造物責任法 (松井 信正;電気電子)</p> <p>第6回 倫理問題の特徴 (川添 薫;医療)</p> <p>第7回 組織の問題 (岡田 公一;機械)</p> <p>第8回 公益通報 — 内部告発 — (田中 義人;電気電子)</p> <p>第9回 偏れた技術者をめざして (古野 弘志;船舶)</p> <p>第10回 機械工学系 事例 (黒田 勝彦;機械)</p> <p>第11回 電気電子工学系 事例 (大山 健;電気電子)</p> <p>第12回 建築学系 事例 (藤田 謙一;建築)</p> <p>第13回 医療工学系 事例 (本村 政勝;医療)</p> <p>第14回 船舶工学系 事例 (松岡 和彦;船舶)</p> <p>第15回 建築学系 事例 (李 桓;建築)</p>

授業形態	<p>オムニバス方式の講義形式</p> <p>【アクティブラーニング】あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、討論を行う。 <p>【成果物等の提出についての学生へのフィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムニバス科目のため、特になし。 <p>【教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目の理論を、論理的に系統立てて説明した上で、具体的な例を、学生自身が実際に計算して、学んでいけるように教育していく。 <p>【特別な事情により対面授業が実施できない場合の形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、受講生にEメールで、学習内容を指示する。
達成目標	<p>世の中にはいろいろな価値観をもつ人々がいるという点を理解すること、技術にかかわる者がやらなければならないこと・やってはいけないことを、判断するための基準を、自ら考える力を付けることを目標として、下記の通り設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の倫理を理解した上で、自分に適用し、さらに理解を深める。 ・工学技術一般に対する倫理を理解した上で、自分の分野の理解を深め、整理できる。 ・工学研究に係わる倫理を理解した上で、自分の分野の動向などを踏まえ、整理できる。 ・広い視野で物事を捉えるために必要な一般教養の習得した上で、幅広く教養を身につけ、新しい理解に繋げる。 ・主体的な行動をすることにより、課題、レポートにおいて正解までたどり着くことができる。
評価方法	毎回の課題レポートを10点満点として、15回合計を100点満点に換算し評価する。詳細は初回の授業でも説明する。
評価基準	<p>【2018年度以前入学生】</p> <p>評定は、優・良・可・不可の4種類をもってこれを表し、優は80点から100点、良は70点から79点、可は60点から69点、不可は59点以下とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。</p> <p>【2019年度以降入学生】</p> <p>評定は、S・A・B・C・Dの5種類をもってこれを表し、Sは90点から100点、Aは80点から89点、Bは70点から79点、Cは60点から69点、Dは59点以下とし、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>※詳細はレブリックを参照すること。</p>
教科書・参考書	教科書：「技術者倫理の世界」(第3版) 藤本 篤 編著, 川下 智幸・下野 次男・南部 幸久・福田 孝之 共著, 森北出版会社
履修条件	<p>【前提となる授業科目】</p> <p>特になし。</p> <p>系統図を、必ず参照すること。</p>
履修上の注意	評価方法を見れば分かるように、欠席・遅刻をしないこと。考慮すべき特段の理由がない遅刻は、欠席と数えることがある。
予習・復習	各回の授業の内容を教科書や配布資料により、毎回予習すると共に、各回の授業で提示している内容やレポート課題を作成することにより、復習を行うこと。
オフィスアワー	掲示やAAシステムの情報も参照すること。
備考・メッセージ	オムニバス形式であるため、レポートは授業内では返却しない。